

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

【事業所概要（事業所記入）】			
事業所番号	2390600050		
法人名	有限会社 菜花		
事業所名	グループホーム 正木の家		
所在地	名古屋市中区正木2丁目14-18		
自己評価作成日	平成31年1月11日	評価結果市町村受理日	平成31年4月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kani=true&JigyosyoCd=2390600050-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』
所在地	愛知県名古屋市中区三本松町13番19号
訪問調査日	平成31年1月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域交流には力を入れており、週2回のカラオケサロン、月1回の居酒屋、餅つき大会、夏祭り等、地域の方を招待出来るイベントや、地域のお祭りや小学校の運動会、クリーンキャンペーンへの参加を入居者様と一緒にっており、入居者様と地域の方々の交流の場を設けています。入居者様の個性を生かし、出来る事に目を向け、個々に寄り添った介護に努めています。更に、最後まで住み慣れたところで生活してもらえるよう、看取りを行っており、家庭的な雰囲気の中で、最後まで孤独を感じる事のないよう支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホーム建物の1階には、交流スペースが確保されており、地域の方にも活用してもらう取り組みが行われている。ホームでは、毎月1回の金曜日の夕方の時間に「居酒屋」の取り組みが行われている。毎回多くの地域の方の参加が得られており、地域の方にホームを知ってもらう機会にもつながっている。ホームは1ユニットの体制であることで、少人数の職員体制による支援が行われている。日常的に職員間で利用者一人ひとりに合わせた支援内容を検討しながら、利用者の意向に合わせた生活の継続に取り組んでいる。利用者の中には、身体状態が重い方も生活しているが、職員間で検討を深めながら、浴槽での入浴支援を行ったり、利用者全員で外出する機会をつくる取り組みが行われている。利用者や家族にとっては、ホームで最期まで安心して過ごすことができる支援体制がつけられている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	1階のエレベーター横に提示し、常に確認できるようにしている。年4回ご家族に送付している正木の家新聞にも記載している。	ホーム名から考えた理念をホーム内へ掲示し、職員間で日常的に理念の内容を意識する働きかけが行われている。法人代表者による職員面談の機会がつけられており、理念の実践に向けた取り組みも行われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内会に加入しており、地域の行事、清掃に参加している。週2回のカラオケサロン、月一回の居酒屋を開催しており、地域の方との交流に努めている。	ホームは地域の自治会に入り、地域で行われている行事に参加する等の交流が行われている。また、ホーム1階の交流スペースを活用した月1回の「居酒屋」の取り組みが行われており、毎回多くの地域の方の参加が得られており、交流の機会につながっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	認知症専門部会のメンバーに入っており、大須で行われる徘徊高齢者おかえり支援事業にも参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	年6回の推進会議を行っており、現状報告やイベントの報告などを行い、出た意見を次の取り組みに活かしている。	会議の際には、地域の方の参加が得られており、会議を通じて地域に関する情報交換の機会にもつながっている。また、地域の消防団長の参加が得られていることで、避難訓練の参加や災害対策に関する助言等の機会にもつながっている。	会議に家族の参加が難しい状況が続いていることもあるため、ホームからの継続した家族への出席の働きかけに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	事業者連絡会にて市の職員との交流を図っており、介護まつり等のイベントにも参加している。 又、推進会議にはいきいき支援センターの方にも参加してもらっている。	区内の介護事業所が集まる連絡会の際には職員が参加し、情報交換等につなげている。また、地域包括支援センターともホームで開催している居酒屋に参加してもらう等、交流と情報交換の機会にもつながっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	玄関の施錠は安全と防犯対策として家族の了承を得て行っている。 今年より、推進会議を活用して身体拘束の適正化の為に委員会を行っている。	身体拘束を行わない方針のもと、建物のエレベーターも利用者が動かすことができるようにしてあり、職員間で連携した利用者の見守りが行われている。また、運営推進会議を通じた検討会議の実施や職員研修を通じた振り返りも行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	マニュアルや研修資料を職員が閲覧できるようにしている。		

1 / 8

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	入居者様のうち、2名後見人制度、1名権利擁護を利用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居時に契約書、重要事項説明書を十分に説明し納得いくよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	請求書送付の際に毎日の様子を同封し、ご家族に入居者様の様子を伝えるよう努めている。 年2回ご家族を招待してのイベントを開催しており、意見を聞けるようにしている。	ホームの行事の際には、家族にも案内を行い、交流の機会につなげている。家族からの要望等については、内容にも合わせながらホーム管理者及び法人代表者による対応が行われている。また、年4回の便りの作成と利用者毎の毎月の報告が行われている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月1回のミーティングには代表も出席し、職員の意見を聞くようにしており、職員の意見や提案を出来るだけ反映するよう努めている。	毎月の職員会議の際には法人代表者も出席しており、職員からの意見等をホームの運営に反映する取り組みが行われている。また、1ユニットのホームでもあるため、日常的に職員間で情報交換を行いながら、業務改善等につなげる取り組みも行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	出来る限り残業がないよう努めている。 年1回の昇給や職員への食事会等も行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	年4回、正木の家での事業所研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	事業者連絡会に加入しており、他業種との交流を図っている。又、他事業所のお祭りに参加したり、正木の家招いてのカラオケも行っている。		

自己 自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	ご家族や、前ケアマネージャーから情報を収集し、日頃のケアに活かしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	見学来所や体験入所、契約時にご家族から不安や要望について聞くようにしている。 又、入所後も要望等があれば話を聞き、対応するよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	その時の状態や状況を見極め、マッサージの導入や提携外病院への受診などを勧めるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	洗濯たたみや食器拭き等、出来る事を見極め一緒に行うようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	外出イベント時に声を掛けたり、夏祭り、クリスマス会へご招待したりと家族で楽しめるイベントを企画し参加してもらっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	友人が訪ねてきたり、年賀状のやり取りをする等、関係継続に努めている。	利用者の中には、外出先で友人、知人と会う機会が得られたり、入居前からの生活習慣を継続している方もいる。また、家族との外出の機会も得られており、定期的に喫茶等に出かけている方や身内の墓参りや法事等を通じた交流も行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者同士の関係性を見極め、席の配置をしたり、2階に介護ベッドを設置し、居室で一人にならない様工夫を凝らしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	イベントに招待したり、現状を聞いたりと関係継続に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の関わりから本人の希望や意向をくみ取るよう努めている。困難な場合は家族からの話を参考にしながら本人本位で支援できるよう努めている。	常勤職員を中心に利用者を担当し、利用者に関する日常的な気付き等を共有する取り組みが行われている。また、毎月のカンファレンスの際には、職員全員で利用者に関する検討を行い、利用者の意向等を日常の支援に反映する取り組みが行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	家族や前ケアマネージャー、友人等、関わりのある方から情報を収集し、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々の関わりから現在の状況を把握し、カンファレンスや連絡ノートを使用し共有を図っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	毎月の日々の様子をモニタリングに活用し介護計画に反映している。又、毎月のカンファレンスでケア内容の検討を行っている。	介護計画については、基本6か月での見直しが行われており、利用者の状態変化等に合わせた見直しが行われている。日常生活記録等を残し、職員全員で利用者の把握を行いながら、毎月のモニタリングにつなげる取り組みが行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	介護記録や個々の介護日誌への記入、連絡ノートを活用し、気づきやケアの変更を共有するよう努めている。又、ミーティングではケアの実践、結果を話あうようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	入居者様の状態の変化に応じてご家族、職員で話し合いその都度対応できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	週2回のカラオケサロンや月1回の居酒屋、地域のお祭りや清掃等にも入居者様と参加し、地域の方との交流の場を作っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	入所時にかかりつけ医の確認を行い、希望するかかりつけ医に診てもらおうようにしている。 正木の家では内科医が月2回、歯科医が週2回往診に来ている。	協力医による定期的な訪問や随時の対応が行われており、利用者の医療面での支援が行われている。受診は家族対応を基本としているが、状況等に合わせたホーム職員による対応も行われている。また、看護職員が週1回勤務している体制をつくっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	看護師が週1回来ており、現状を報告し、指示をあおいでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には定期的に訪問し、担当看護師からの情報収集に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入所時と終末期が訪れた際にご家族と確認を行っている。又、定期的な医療行為が必要となった場合は、訪問医と相談し医療機関への入院や他施設への転所を提案している。	利用者の中には、身体状態が重い方もホームでの生活を継続しており、医療面での連携を深めながら、ホームでの看取り支援にも取り組んでいる。利用者の身体状態等に合わせた家族との話し合いを重ねながら、意向等に合わせた支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時マニュアルを作成し、各階においている。 又、消防団によるAEDの研修等も行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	消防団長の協力のもと、避難訓練を年4回行っている。一昨年より福祉避難所の指定も受けている。	年4回の避難訓練が行われており、夜間を想定した訓練や通報装置の確認等が行われている。訓練の際には消防団長の参加も得られており、職員への助言等が行われている。また、ホーム内に水や食料等の備蓄品の確保が行われている。	ホームは福祉避難所にもなっていることもあるため、非常災害時の地域の方の受け入れを含めた、地域の方との継続的な協力関係の取り組みに期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	個々の人格やプライバシーを損ねない言葉かけを意識し取り組んでいる。	職員が利用者一人ひとりに合わせた対応を行うように、日常的に職員への注意喚起等の取り組みが行われている。また、運営法人で職員の接遇にもつながる研修を実施しており、職員の振り返りにもつなげている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	本人が出来るだけ自己決定できる様、声掛けをしている。意思表示が出来ない方にも声掛けをし、表情等でくみ取るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	大まかな時間配分は決まってはいるが、その時の状態や状況に合わせ、臨機応変に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	自分で服を選ぶよう声掛けをしたり、希望者にはマニキュアをしたりとおしゃれができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	一人ひとりに合った食事形態で提供している。入居者様には大根おろしやもやしの髭取り、食器拭き等を手伝ってもらっている。	食材業者のメニューから、利用者に合わせたアレンジが行われている。利用者の参加は困難になっているが、片付け等のできることに参加した取り組みが行われている。また、身体状態に合わせた食事形態の提供や食事の際には職員も一緒に食事を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	毎日、食事量を記録している。必要な方は水分量も記録するようしている。水分が摂りにくい方へはお茶ゼリーを提供したりと工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、口腔ケアを行っている。必要な方は歯科往診で口腔ケアを受けている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	出来る限りトイレで排泄できるよう努めている。 排泄チェック表を活用し、失敗のないよう努めている。	利用者全員の排泄記録を残し、職員間で排泄に関する情報を共有しながら、一人ひとりに合わせた排泄支援につなげている。トイレでの排泄を基本に考えながら、排泄状態の維持、改善につなげている。また、排泄に関する医療面の連携も行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	牛乳の提供や寒天ゼリーの活用、服薬の調整を行い、個々に合わせた予防を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。	隔日の週3回行っている。本人意思を尊重し無理強いはいないように努めている。	月曜日から土曜日までの間に、利用者に合わせて週2～3回の入浴が行われている。入浴を拒む方も職員による交代しながら声かけ等が行われている。また、身体状態が重い方も職員複数で介助しながら浴槽に入ってもらい取り組みが行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	2階に畳を置き、その時々体調や状況に合わせて、休んでもらえるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬説明書を全職員が閲覧できるようにしてしる。変更等があれば連絡ノートに記入し、全職員が把握できるよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	入居者様の出来る事に目を向け、それを活せるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	近隣の公園や神社への散歩や地域のイベントにも積極的に参加している。年2回の外出イベントも行っている。	利用者の状況等にも合わせた散歩や買い物等の機会をつくっている。季節に合わせた花見等の外出行事の他にも、区役所で開催された行事の際には、利用者全員が外出している。また、利用者の希望に合わせた個別外出の取り組みも行われている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	一定額をご家族より預り、事務所で管理している。ほしいものがある場合は職員と一緒に買い物に行ったりもする。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	家族と電話で話したり、年賀状を個々で作成し送ったりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	玄関には季節ごとの飾りを入居者様と一緒に作り展示している。リビングはその時々々の状況に合わせ、家具の配置を変更している。	ホーム内は、日中を過ごすリビングと利用者の居室がフロアーで分かれていることで、メリハリのある生活にもつながっている。リビングの一角には畳コーナーがあり、利用者が日中過ごすことができる。また、季節等に合わせた雰囲気づくりも行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	気の合った入居者様同士と一緒に過ごせるよう席の配置をしている。又、2階に畳やベッドを設置し、横になって過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご自宅で使っていたものを置いたり、家族の写真を飾ったりと居心地良く過ごせるような環境づくりをしてい。	居室がホーム建物の3階にあることで、他の方から離れて居室で静かに過ごすことが可能である。居室には、シンプルな雰囲気の方もいるが、利用者や家族の意向にも合わせた様々な持ち込みが行われてあり、一人ひとりに合わせた居室づくりが行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	トイレの張り紙や手すりの設置等、分かりやすく自立した生活ができるよう支援しています。		